

日実動学-外検発 第R8-7号-証

検証実施証明書

健康科学大学
学長 檜本 温 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会による「動物実験に関する
外部検証事業」による自己点検・評価を行い
その結果に対する検証を本委員会が実施した
ことを証します

2026年3月16日

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉 淳郎



No.2026-7

Japanese Association for Laboratory Animal Sciences



CERTIFICATE

President Satoshi Kashimoto
Health Science University

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certifies that Health Science University received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2025".

Sincerely yours

16 March, 2026

Atsuo OGURA, Ph. D., D.V.M
President
JALAS

Masami MORIMATSU, Ph.D.,
D.V.M., DJCLAM
Chairman
Assessment and Verification
Committee, JALAS

動物実験に関する検証結果報告書

健康科学大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2026年3月

健康科学大学
学長 榎本 温 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉淳郎



対象機関：健康科学大学
申請年月日：2025 年 7 月 29 日
訪問調査年月日：2025 年 11 月 10 日
調査員：荒田 悟、兼平雅彦

検証の総評

2003 年に開学した健康科学大学は、山梨県内の富士山キャンパスにある健康科学部と桂川キャンパスにある看護学部の 2 学部で構成され、動物実験は健康科学部で実施されている。加齢、運動、生活習慣病等の研究のため実験動物としてマウスが使用されており、飼養保管施設における飼養数や動物実験の実施状況は小規模である。文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下、「基本指針」という。）」に適合した機関内規程に基づき、動物実験委員会が組織され、動物実験計画の審査、承認、動物実験の結果の把握、自己点検・評価等が実施され、飼養保管施設は、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下、「飼養保管基準」という。）」をほぼ遵守して管理運営されている。また、自己点検・評価を 2011 年度より毎年実施し、外部検証も積極的に受検していることは評価できる。しかしながら、飼養保管マニュアルの不備など改善すべき点も見られるので、動物実験の実施体制を見直し、更に適正な動物実験の実施を進められたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
<input type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
<input checked="" type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
「健康科学大学研究・動物実験委員会規程 (以下、「委員会規程」という。)」の下に「健康科学大学動物実験に関する細則 (以下、「細則」という。)」が定められ、この両者が機関内規程に相当する。自己点検で不備があったとした細則の改正などは完了し、組織体制図も作られている。したがって、機関内規程について、「機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合する機関内規程が定められている。」とする。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
<input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
基本指針で要求される委員会の役割が委員会規程及び細則に明記され、必要な3要件の委員が含まれる委員会が設置されている。したがって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。
<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見
実状に合わせて委員会規程に、学長による委員の任命及び実験動物に関して優れた識見を有す

る者を複数名とすることを明記されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験計画の立案、審査、承認、実験結果の報告等が委員会規程及び細則に規定され、これらの手続に必要な「動物実験計画書」「動物実験結果報告書」「変更追加承認申請書」「動物実験終了・中止報告書」「飼養保管施設設置承認申請書」等の各種様式も定められている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

「動物実験計画書」に人道的エンドポイントの内容を記載できるように検討されたい。また、各様式の番号付けや手引きの作成などにより、動物実験実施のための手続について分かりやすくする工夫をされたい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

該当する動物実験は、前回の外部検証時以降も行われたことはなく、実施の予定もない。麻酔薬として使用されている麻薬は、適正な行政手続と薬品管理が行われている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

遺伝子組換え動物の搬入、飼育の禁止について「飼養保管マニュアル」に明記しているが、感染実験等の安全管理に注意を要する動物実験についても、実施できない旨を周知することを検討されたい。なお、安全管理に注意を要する動物実験を実施する場合は、必要に応じて関連規則や委員会などの必要事項を整備されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験は飼養保管施設内で完結し、実験動物管理者も配置されている。委員会規程及び細則で規定している手順書の「動物実験飼育室飼養保管マニュアル（マウス・ラット）」と「実験動物の緊急時への対応について」を定めている。しかしながら、両手順書は、その内容及び動物実験実施者への周知に不十分な点が見られる。したがって、動物実験の飼養保管の体制について、「基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」との自己点検・評価の結果であるが、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物実験飼育室飼養保管マニュアル（マウス・ラット）には、誤記や機関内規程と異なる記載も見られるため、修正後に周知を進められたい。また、緊急時の対応に関する内容については、地震と火災を分けることを検討されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

2016 年度に国立大学法人動物実験施設協議会（以下、「国動協」という。）と公私立大学実験動物施設協議会（以下、「公私動協」という。）の「第 2 期外部検証プログラム」に基づく外部検証を受検し、今回は 2 回目である。前回の指摘点の多くは改善されている。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 委員会規程により学長が設置した動物実験委員会が対面とウェブ会議で開催され、動物実験計画書の審査や結果の把握などが行われている。2024年度は5件の計画書が審査され、4件が学長により承認されている。それらについて確認できる審査時のコメントを含めた審査結果及び委員会の議事録も適切に保存されている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験計画の承認期間は3年であるが、途中経過を含め毎年終了報告書が提出され、実験動物の使用匹数などの実施状況が把握されている。また、動物実験の自己点検票も全て提出されている。したがって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 遺伝子組換え動物を用いる実験、放射性物質使用動物実験、病原体の感染動物実験、有害物質を投与する動物実験が行われていない。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 飼養保管施設の「入退室記録」「実験動物記録表」「飼育室点検表」により入退室、実験動物の搬入・健康管理・使用状況、及び飼育環境が管理されている。逸走や災害時等の緊急連絡先が掲示されている。実験動物飼養保管状況の自己点検票の提出により管理状況が把握され、飼養保管に関して重大な事故などは起きていない。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 飼養保管マニュアルを施設内に備えて、利用者に周知徹底されたい。また、飼育室点検表には飼育ラック内の温湿度をチェックするだけでなく記録を残し、実験動物記録表も記録事項を充実させて、飼養保管管理に有効に活用されたい。また、微生物モニタリング検査は年に1度実施し

ているが、自家繁殖をする場合は検査の実施頻度を増やすことを検討されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

実験動物は、明暗と温湿度が管理された飼育ラック内で飼育され、飼育室も衛生的に管理されている。施設による入退室管理、利用時の記録、動物実験委員による施設の定期的な視察も行われている。したがって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼料の衛生的保管や逸走防止のため、隣接する実験室は整理整頓し整備されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験は教員と卒業研究のため数名の学生が実施するが、基本指針及び飼養保管基準で要求される項目の教育訓練がオンデマンド形式で行われ、終了時に確認問題を課している。また、実験動物管理者と複数の動物実験委員会委員は、公私動協が主催する「実験動物管理者の教育訓練」を受講している。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

外部研修会等で得た最新の情報を取り入れて、機関内で実施する教育訓練の内容を更に充実されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 自己点検・評価は 2011 年から毎年実施し、前回の外部検証の結果を含め国動協と公私動協が要請する公開項目がウェブサイトに公開されている。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

動物実験について 2011 年度より自己点検・評価を毎年実施し、外部検証も継続的に受検していること、動物実験委員会委員が継続して外部の研修会に出席しているなど、適正な動物実験の実施に取り組む姿勢は高く評価できる。
--